

るものになります。

本大震災で

結論を出

遺構」と

11

わ

した校舎や家屋が ていますが、

災意識を醸成する する危機意識や防 ある建物などは 自然災害に対

大震災から

3年が過ぎ、 11 日で東日本 業や高

南島原市災害派遣職員 田

クを迎えます。 成26年度は復興事業

流で被災した大野 雲仙普賢岳 木場小学校校舎や した家屋を保存し 土石流により被災 の火砕

の方針となり

ま

管理が可 将来にわたって安全面や維持 復興事業の妨げにならないか 者会議で議論されています。 ら県が主催する震災遺構有識 防災対策庁舎を残すことで 能か。 合意形成ができる ・県で後世 として、 の課題があること 残すことに対 昨年末か へ残す意 東日本大震災災害派遣レ ポ

の意見が町に寄せられて を合わる祈念の場所とな 「取り壊し」など、 最終的に復興事業へ るため、 震災直後から

復興を願い「リメンバー3.11」



東日本大震災から3年が経過しようとしている3月9 日、東北の復興を応援するイベント「リメンバー3.11」 が西有家町の須川港多目的防災広場で行われました。

このイベントは、同じ自然災害を経験し、全国から温 かい支援によって復興を成し遂げた島原半島人として 「3.11」を忘れることなく、引き続き被災地の現状に 関心を持って支援の輪を広げるために、がまだせ東北支 援実行委員会が開催しました。

会場では、南三陸町特産品などの販売や復興への願い を込めた和太鼓の演奏などが行われました。



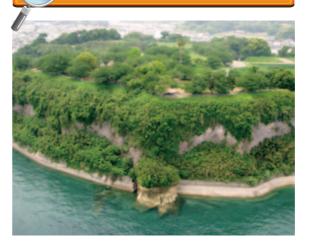
つなごう未来へ!島原半島世界ジオパーク

ジオパークであり 続けるための取り組み



問 島原半島ジオパーク推進連絡協議会 ☎0957(65)5540

ジオサイト① 原城跡



本丸があった高台。上半分は阿蘇山の巨大火砕流の堆積物 でできています。



原城跡の海岸沿いに露出する地層。阿蘇山からの巨大火砕 流の堆積物が間近に観察できます。

巨大噴火と歴史との関わり

今月から、島原半島ジオパークの見どころ「ジオサイト」を紹 介していきます。ジオサイトは、地形や地層、岩石を観察するだ けでなく、地球活動と人々との関わりを楽しむ場所の事です。

第1回目は、「原城跡」です。1938(昭和13)年に国の史跡 に指定され、現在世界文化遺産の本登録を目指しています。

原城は、島原半島を治めていた有馬氏の本城・日野江城の出城 として、安土・桃山時代に築城されました。江戸時代に入ってす ぐの1604年には、城は新しく作り直されましたが、1616 年に有馬直純が日向延岡に転封され、代わって松倉重政が入封。 重政の命により、1618年に島原城の築城が始まると、「一国 一城令」で、原城は日野江城と共に廃城になりました。1637年、 「島原・天草一揆」が勃発。 唐津藩天草領の領民と合わせて約3 万人(諸説あり)の一揆軍と、12万ともいわれる幕府軍との戦 闘は80日間にもおよび、最後は内通者1人を除いて皆殺しとい う悲劇を招きました。

徳川幕府を震え上がらせ、日本の鎖国政策を加速させるきっか けとなった大事件の舞台となった原城は、海に突き出た丘状の高 さ約30メートルの自然地形を利用して建てられたものです。

この高台の上半分は、およそ9万年前、現在のカルデラを造っ た阿蘇山の巨大噴火で生じた大規模火砕流の堆積物です。もし、 この火砕流が発生していなかったら、有馬氏はどんなところに新 しい城を作ったのでしょう。

次回は「眉山と島原大変」を紹介します。







長崎県島原市今川町1850-1大手門ビル5階<mark>(電話受付:平日17:30まで</mark>)

広報 南島原 2014.4 22 23 広報 南島原 2014.4